宮城県立精神医療センター

〒981-1231
宮城県名取市手倉田字山無番地
TEL.022-384-2236(代)

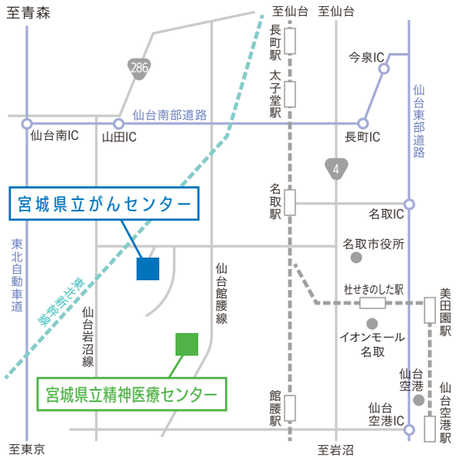
ロゴマークは3つの行動規範「Smile Support Sprits」と患者さんを病院・家族・地域で包み込むというイメージを重ね合わせたものです。MPCはMiyagi Psychiatric Centerを表しています。

宮城県立がんセンター

〒981-1293
宮城県名取市愛島塩手字野田山47-1
TEL.022-384-3151(代)

ロゴマークの3本の柱は「治療、予防、研究」を、上の「まる」は患者さんを表しています。3本の柱が、患者さんを支えるという意味です。

アクセス



宮城県立精神医療センター

JR 東北本線名取駅下車、バスまたはタクシーを利用

バス 名取駅西口から「なとりん号」を使用
(所要時間　約7分)

自家用車 仙台南インターから県道仙台・岩沼線を利用
(所要時間 約20分)

宮城県立がんセンター

JR 東北本線名取駅下車、バスまたはタクシーを利用

バス 名取駅西口から「なとりん号」を使用
(所要時間　約7分)

自家用車 仙台南インターから県道仙台・岩沼線を利用
(所要時間 約15分)

地方独立行政法人
宮城県立病院機構
宮城県立精神医療センター　宮城県立がんセンター

看護師採用に関するお問い合わせ先

地方独立行政法人
宮城県立病院機構本部事務局
〒981-1239 宮城県名取市愛島塩手字野田山47-1
TEL.022-796-1042

内容現在：2025年4月　作成部数：500部

看護師採用案内

宮城県立精神医療センター
宮城県立がんセンター

あなたが、いてくれてよかった。

ナラティブを紡ぐ

私の看護を届けたい。
みえない声を聴き、一人ひとりに寄り添う看護
共に創りあげるナラティブがある。

良質な医療の提供

温かさを感じる看護

看護師としての豊かな成長

ともに支え合い成長する看護師をめざして

宮城県立病院機構は、宮城県立精神医療センターと宮城県立がんセンターの2つの病院を運営している地方独立行政法人です。

当機構、すなわち両病院が果たすべきミッションは、民間の医療機関では対応が困難な、高度で専門的な医療を県民の皆様に提供することにあります。

そのため、各病院の現場では職員一人ひとりが、医療や看護に対する高い倫理観や熱い志を持って日々の業務に励んでいます。そのようなスタッフを支え、育成することこそが両病院を統括する当機構が果たすべき役割であり、専門性の高い知識や技術の習得に向けた、きめの細かい教育プログラムや働き方の改善に向けた各種制度の充実などの環境づくりを行っています。これにより看護師をはじめとする全てのスタッフが、「精神科医療」や「がん医療」のプロフェッショナルとして、ともに支えあい成長できる環境で、やりがいをもって全力で職務に取り組んでいます。

当機構へ入職をお考えの皆様、患者さん一人ひとりと真摯に向き合い、その人の想いにしっかりと寄り添うことを大切にした、高度で専門的な医療や看護をともに提供していきましょう。

皆様の御応募、心よりお待ちしております。

地方独立行政法人宮城県立病院機構理事長
（宮城県立がんセンター総長）　山田 秀和

宮城県における精神医療の基幹病院として、利用者の生き方に寄り添う医療

Miyagi Psychiatric Center
宮城県立精神医療センター

基本理念　心のかよう良質な医療を提供し、信頼される病院を目指します。

●病院概要
病床数／精神病床148床、精神科救急病床110床
職員数／216名（看護師数 152名）
●診療科／精神科、児童精神科、歯科（入院患者のみ）

●看護体制
【看護単位】精神科病棟3看護単位
（児童思春期ユニットを含む）
精神科救急病棟2看護単位
外来（児童思春期外来含む）1看護単位
●勤務体制　3交替・早番・遅番

【看護配置】精神科病棟　1５：1
児童思春期病床　10：1
精神科救急病棟　10：1
看護補助加算　30：1
【看護提供方式】グループプライマリーナーシング

〒981-1231 宮城県名取市手倉田字山無番地　TEL. 022-384-2236（代）　Mail. mpc-info@miyagi-pho.jp

東北唯一のがん専門病院として、高度かつ先進的ながん医療の実践

Miyagi Cancer Center
宮城県立がんセンター

基本理念　患者さんの視点に立ち、良質かつ先進的医療を提供し、がん専門病院としての使命を果たします。

●病院概要
病床数／一般病床358床、緩和ケア病棟25床
職員数：523名（看護師数 313名）
●診療科／血液内科、腫瘍内科、呼吸器内科・外科
頭頸部内科・外科、消化器内科・外科、
緩和ケア内科、婦人科、泌尿器科など　全26診療科

●看護体制
【看護単位】一般病棟・HCU8看護単位
緩和ケア病棟1看護単位
外来2看護単位／手術室1看護単位
●勤務体制　3交替・早番・遅番

【看護配置】一般病棟　7：1
緩和ケア病棟　7：1
急性期看護補助体制加算 25：1
急性期看護補助体制加算夜間 100：1
【看護提供方式】グループプライマリーナーシング

〒981-1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山47-1　TEL. 022-384-3151（代）　Mail. mcc-info@miyagi-pho.jp

Miyagi Psychiatric Center

宮城県立精神医療センター

可能性を信じて共にあゆみを続ける看護

当院は、精神科の基幹病院として、宮城県の精神医療の中心的な役割を担っています。精神科救急24時間の受け入れ体制、児童精神科、訪問看護ステーションの運営等、社会のニーズに応じた医療を提供しています。

当院では、「Smile（笑顔で）、Support（支援）、Spirits（心を込めて）」をモットーに、心の通う精神医療の実現を目指しています。私達看護師は、病状で隠れている患者さんの本来の姿―「性格や強み」、「大切にしていること」などーに目を向け、「こうありたい！」と思う姿を目指して、心を込めて支援しています。そのために、通院や入院時だけでなく、地域における日常生活のあらゆる困り事や苦しさに対し、その方の可能性を信じ共にあゆみを進めることを大切にしています。

●看護部理念

看護倫理を基盤に、精神科看護の質の向上を図るように努める。また、看護のさまざまな「おこない」をとおし、患者さんおよびそのご家族のよりよい環境作りに努めるとともに、社会の動向に沿った継続性のある良質な看護活動を展開する。

●看護部方針

1. 患者さん・ご家族一人ひとりの「そのひとらしさ」を大切に、看護を提供する
2. 患者さん・ご家族の個々の生活能力を高め、早期退院に向けた積極的な支援に努める
3. 専門的知識に基づき安全・安楽を考慮し医療事故防止に努める
4. 医療チームの一員として看護の専門性を発揮し、効率的な看護を提供する
5. 精神科看護としての専門性を高める
6. 健全な病院経営に参画する

看護部長　大場 美沙

精神科看護は心が感じることからはじまる

「精神疾患を持つ人に関わりたい！」そう思ったのは、看護学生３年次の実習で出会った患者さんが発した言葉を聴いた時でした。病棟のデイルームで将棋をさしながら「退院先が決まらない」と悲し気に話す様子が強く心に響きました。病気が落ち着き、このように穏やかに日常を送れる状態にあっても精神疾患を持つことで、退院できないこともあるという事実を知ったのです。私の中で、患者さんの描く生活を営むことができるようにサポートしたいという気持ちが、湧きあがった瞬間でした。

現在、当センターの看護師は、患者さんと真摯に向き合い、思いに寄り添い、対話を続けるという精神科看護の基本を大事にしながら、退院支援、地域定着推進に力を注いでいます。さらに、患者さん、ご家族、看護スタッフや多職種チームと語り合い、力を合わせて、患者さんの希望や可能性を探り、患者さんが求める生活や生き方に近づくようにサポートしています。まさにチーム医療の醍醐味が味わえる実践が展開されています。

当センターは、職員がチームのひとりであることに誇りとやりがいを感じながら活動できる場所です。私達と一緒に、患者さん、ご家族、地域の支援者と、共にあゆみ続ける看護を目指しませんか。皆さまと一緒に看護ができる日を心からお待ちしております。

宮城県立精神医療センターでの看護のやりがい

患者さんに寄り添い安心感を与えることが出来るような看護の提供を目指したい

入職した当初は、疾患によって引き起こされている幻覚や妄想に対してどのような言葉かけや関わり方が適切なのか難しく感じ、悩むことが多かったです。同じ疾患名であってもそれぞれの方が生活してきた背景などによって全く違う捉え方や考え方を持っており、患者さんへの看護にも個別性がとても大切となってきます。自分一人の力では限界があるため、他職種の方々や先輩看護師と相談しながら、患者さんが安心して生活を送ることが出来るように日々取り組んでいます。慢性期病棟では、長期にわたって入院している方が多く、時間をかけて患者さんと関わることが出来ます。退院に向けての動きはゆっくりかもしれませんが、自分の関わりの中で少しの変化が現れた時には、嬉しさとやりがいを感じます。

私は、疾患により患者さんが抱えている生活しづらさを少しでも軽減することが出来るよう、患者さんに寄り添いそれぞれに合わせた看護をこれからも心掛けていきたいと思います。

廣長 瑠奈（５年目看護師）

根気強く丁寧に患者さんに関わり続ける

白石 愛（９年目看護師）

入職して８年が経ち、これまで様々な患者さんと出会ってきました。急性期病棟では、医療保護入院や措置入院といった患者さん本人が希望をしない入院がほとんどであり、病状により入院の必要性の理解も難しいため、医療に対し不信感を持っている場合が多いです。傷つく言葉を投げかけられたり、興奮状態にある患者さんを目の当たりにして、どのように関わっていけばいいのだろうかと日々悩みながら、医療チームでカンファレンスを重ね、その患者さんに合った看護を考えています。なかなか上手くいかないこともありますが、根気強く丁寧に関わり続けることで心を開いてくれる患者さんも多く、次第に私たちの言葉も受け入れ、「ありがとう」と笑顔で退院される姿をみた時にはやりがいと嬉しさがこみ上げてきます。自分の関わりが直接患者さんに影響していくため、難しさは感じますが、向き合ったその時間が、看護師として、また人としての成長につながっていると感じます。

患者さんの「その人らしさ」を大事にし、理想や希望の実現に向けて支援する

「包括的暴力防止プログラム（CVPPP）」を知っていますか？精神科医療界にとどまらず、様々な分野で注目されてきているプログラムです。私はCVPPPインストラクターという資格を得て、当院のみならず他施設への普及を行っています。CVPPPは、精神科医療現場等で起こる患者さんの暴力を防止するプログラムですが、決して暴力を物理的な力で抑え込むプログラムではありません。患者さんが抱える不安や恐怖、怒り、悲しみ、苦しみなどの感情を暴力という形で表現しないように安心できる環境づくりや我々看護師を含め、様々な方と安心した信頼関係を構築することが目的です。そのために患者さんの「その人らしさ」を大事にし、理想や希望の実現に向けて支援をしています。

私が大事にしている言葉に「その人をよく知れば、その人を傷つけようとは思わない」というものがあります。患者さんからそう思ってもらえるように日々看護に励んでいます。そして、入院という不便な生活を送りながらも笑顔で話しかけてきてくれる患者さんとの日々の対話が、私の「看護のやりがい」となっています。

中鉢 亘（副看護師長）

精神医療センターの教育体制

新人看護師の年間スケジュール

精神医療センター

基礎看護

オリエンテーション

基礎看護研修
・講義
・演習
・e-ラーニング

6月～
夜勤開始！

医療安全・
感染管理研修
看護過程を学ぶ

シミュレーション研修
・急変時の対応
（BLS）

看護倫理研修

事例検討会

シミュレーション研修
・急変時の対応
（BLS）

私の看護観発表会
・ナラティブストーリー

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月

1年間の目標の評価・レベルⅠ申請準備

3月

レベルⅠ認定証授与

精神看護

精神看護研修
・精神科疾患の特徴と基本的な精神科看護を学ぶ

シミュレーション研修
・精神運動興奮時の対応

シミュレーション研修
・CVPPP 研修
（講義・演習）

シミュレーション研修
・対人関係能力を養う

精神科3大療法と看護
・精神（心理）療法、薬物療法、リハビリテーションについて学ぶ

看護部の教育目標

教育目標

1. 看護師として必要な基礎的な知識・技術を習得し、看護実践能力を高める
2. 精神科看護の専門性を高める

教育プログラム4つの柱

・ニーズをとらえる力　・協働する力
・ケアする力　・意思決定を支える力

プリセプター制度

プリセプター制度とは

新人看護師（プリセプティ）には、心理的サポートや技術指導を行う先輩看護師（プリセプター）が付き、1年を通してマンツーマンでフォローします。

プリセプター 野村 美里（左）／ プリセプティ 小船 ほのか（右）

先輩看護師（プリセプター）

先輩看護師（プリセプター）東Ⅰ病棟　野村 美里

入職当時プリセプティはとても緊張していましたが、病棟に慣れるよう、相談しやすい雰囲気をつくることを意識しました。自分の業務も行いながら指導することは不安でしたが、病棟スタッフの方々にフォローして頂き、病棟全体で指導にあたることが出来ました。

また、指導する上で、改めて勉強することも多く、自分の学びにも繋がりました。精神科は患者さんとの関わりが難しい反面、そこが魅力でもあると思います。どのような看護をしていくか悩みも多いですが、患者さんに丁寧に関わり関係性を築いていくプリセプティの姿は嬉しく感じます。

今後も本人の気持ちに寄り添いながら、自分自身も共に成長していけるように頑張っていきたいと思います。

新人看護師（プリセプティ）

新人看護師（プリセプティ）東Ⅰ病棟　小船 ほのか

入職した当時は社会人だけでなく看護師1年目として初めてのことばかりで緊張と不安の毎日でした。しかし、プリセプターさんは優しく接してくださいました。時間をかけて技術や業務などのサポートをしてくださり、日々気にかけてくださったことで緊張と不安が徐々に和らいでいきました。

また、病棟の先輩方も患者さんの対応や技術面で丁寧に助言してくださりとても看護師として学びになる1年を過ごすことができました。プリセプターさんをはじめ病棟の先輩方は看護師として経験豊富な方々のため、日々看護師として学ばせていただく部分が多くあります。

まだまだ未熟な私ですが、先輩方を目標に患者さんと良い関わりを築ける看護師になれるように努力していきたいです。

クリニカルラダー

段階的なプログラムで着実に実践能力を高められます

10年目～
より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
看護研究、多職種協働による地域移行支援の実際 など

5～9年目
幅広い視野で予測的判断を持ち看護を実践する
リカバリー・ストレングスモデル、認知行動療法、ファシリテート など

専門看護だけじゃなく，基礎看護も一緒に学べる環境です！

3～4年目
ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する
リーダーシップ、多職種連携、訪問看護、看護研究、精神科看護 など

2年目
標準的な看護計画に基づき、必要に応じ指導・助言を受け看護を実践する
看護倫理、精神疾患の治療と看護、緊急時の看護、フィジカルアセスメント など

1年目
基本的な看護手順に従い指導・助言を受けて看護実践できる
基礎看護技術（※新人看護師の年間スケジュール参照）

Miyagi Cancer Center

宮城県立がんセンター

ここだからできるがん看護がある

当センターは、東北唯一のがん専門病院であり、都道府県がん診療連携拠点病院としてがんの高度先進医療の提供を行うと同時に、緩和ケアや研究を含めた「がん征圧の拠点」としての役割を担っています。2人に1人ががんになる時代、私達看護部は、患者さんにとって最善となるがん医療を提供し、患者さんががんとよりよく共生できるよう、がん看護に携わるプロフェッショナルとして自覚と責任を持ち看護に取り組んでいます。

今、社会の変化や個人の価値観の多様化などを背景に、看護師が果たす役割は拡大しています。その中において、私達看護部は、エビデンスに基づく質の高い看護ケアを提供し、患者さんご家族に対し「温かい」看護を実践することを大切にしています。

患者さん一人ひとりに寄り添い看護を提供する、「ここだからこそできるがん看護」を行い、「このセンターに来て良かった」と感じていただける看護部でありたいと思っています。

●看護部理念

人々の生命及び人権を尊重し、温かく信頼感に基づいた質の高いがん看護を提供します。

●看護部方針

1. 患者さんのニーズを的確に捉え、安心感、満足感とともに信頼される看護に努めます
2. 専門職業人として主体的に学び、人間的成長とがん看護の実践能力の向上を目指します
3. 医療チームの一員としての役割と責任を果たし、地域及び多職種との連携を深めます
4. 業務改善を推進するとともに経済効率の向上を目指します

看護部長　小野 由美子

がん患者さん、ご家族の思いに寄り添う看護をめざして

国民の２人に１人ががんに罹患する現在、治療成果の向上や、治療方法の多様化に伴い、がん患者さんの生存期間の長期化、社会復帰が容易となりました。しかし、がんという疾患は治療経過が長く、それぞれの段階で必要とされる治療や看護ケアが異なります。がんと共存する中で、長い治療経過を見据えて、常に患者さんにとって何がベストなのか、ご家族の思いは何か、患者さんの可能性を引き出すのが看護師の役割です。

患者さんの最も近い存在である看護師は、患者さん、ご家族の言葉にできない「今」の思いに寄り添いながら、自らのご意思で治療や療養を選択できるよう支援することが求められます。

看護部の教育は、看護実践の基礎的能力から「がん看護実践能力」まで、段階的に学びを深める研修体制になっています。現場にいる専門・認定看護師や医師等が講師になり、患者さんやご家族の状況から看護を探求できる充実した研修となっており、これらの教育と臨床の学びを統合しながら「がん看護」の実践へとつなげていきます。

「がんセンターだからできる看護がある！」がん看護に興味のある皆さん、是非、私達と一緒に患者さんに寄り添いながら「がん看護」を実践してみませんか。

宮城県立がんセンターでの

看護のやりがい

患者さんに合わせたコミュニケーションにより、寄り添った看護をしたい

大澤 夏希（４年目看護師）

がんと診断された患者さんに対してどのような声がけをしたらよいのか、どのようにコミュニケーションをとることが患者さんにとって不安の軽減に繋がるのか、悩みながら患者さんと関わることが多くあります。コミュニケーションは他の看護技術と違って正解がないため、一人一人の患者さんに合った方法でコミュニケーションをとることが大切だと思っています。たとえ同じ疾患や同じ年齢であっても、患者さんの性格やこれまでの生活背景、患者さんが大切にしていることなどはさまざまです。

以前治療目的に入院された患者さんで永久気管孔がありジェスチャーを交えた食道発声が主なコミュニケーションの方がいました。初めはなかなか聞き取れず、聞き返してしまうことが多かったため患者さんが苦笑しながらお話されることがあり「また何度も同じことを言ってもらわなくちゃいけない。」とコミュニケーションの難しさを痛感する場面が多くありました。

しかし、患者さんとの関わりが多くなっていくうちに、患者さんの口の動きや表情などから思いを少しずつ理解することができるようになり会話中も笑顔が多くみられるようになりました。そして治療が終了し、退院されるときには「お世話になりました。ありがとう。」との言葉を頂いたことが今でも印象に残っています。コミュニケーションといっても、言葉だけでなく、患者さんの表情や仕草などからも思いを汲み取り、患者さんに寄り添うことのできる看護を目指していきたいと思います。

「言葉」では表せない「思い」を看る

佐藤 心（９年目看護師）

私には忘れられない患者さんとの出会いがあります。その方は肺がんの治療目的に入院され、失語症と片麻痺がありADL介助を必要としました。私は失語症の方を受け持つことに戸惑い、筆談や五十音表を指さしてもらい何度も聞き返し何とか思いを理解しようと努めましたが、ある時、患者さんは自分の思いを伝えることを諦めてしまう場面がありました。そこで私は患者さんとご家族とのやりとりから患者さんのコミュニケーションの取り方を観察しました。そして、患者さんの身体に触れながら私の思いを伝えて、患者さんの表情や声色の違いに集中し目と耳を傾け、「言葉」では表せない患者さんの「思い」を看るように心がけました。すると、患者さんもジェスチャーを交えゆっくり言葉を伝えてくださり、少しずつ思いを理解しスムーズなコミュニケーションが図れるようになりました。

退院の日、代筆した1枚の手紙を奥様から頂きました。そこには「細やかな気配りをありがとう」とありました。「本当に色々とお世話になりました」と話される奥様の隣で深く頷かれた患者さん、最後に握手を求められ笑顔で退院された姿が目に焼き付いていて、鮮明な記憶と共に今でも胸が熱くなります。

看護の「看」という字は、手と目でできています。患者さんの言葉に「耳」を傾けるだけでなく、言葉では表せない複雑な思いを感じ取り安心感を届ける「手」と、些細な変化を見逃さず観察する「目」を使いながら、患者さんの心に寄り添う温かい看護を目指していきたいと思います。

患者さんの思いを尊重し、「人生を支える」看護を大切に

藤澤 一樹（副看護師長）

がん患者さんとご家族は、がんと診断されてから病状、治療など様々な事に不安や恐怖といった感情を抱かれています。感情の表出に個人差はありますが、そういった感情の変化を見逃さないようにすることを常日頃心掛けています。コミュニケーションは患者さんやご家族の不安を和らげるだけでなく、思いを共有することで的確な情報提供、治療に対するコンプライアンスの維持向上にも繋げることが出来ます。

手術療法目的で入院された高齢患者さんの話です。手術療法の説明中、終始うつむいており、ご家族はその様子を心配そうにみていました。患者さん、ご家族の思いを聞くと患者さんの本心は手術をしたくない、ご家族も治療はしてほしいけど無理はしてほしくないという思いでした。その思いをふまえ、治療方針が再度示され、患者さんは放射線療法を選択しました。

後日外来でお会いすると「あの時もう一度考え直す機会をもらえてほんとによかったです。傷もないから余計に元気です。」と話してくださいました。

コミュニケーションを通して、がん患者さんがその人らしく生きること、最善の選択が出来る支援をすることが私たちの務めであり、がん看護のやりがいと強く感じています。

がんセンターの教育体制

新人看護師の年間スケジュール

がんセンター

基礎看護

オリエンテーション

基礎看護研修（看護技術の基本）
・医療機器の取り扱い　・麻薬の取り扱い
・褥瘡予防対策研修　・医療安全研修

看護理論研修

看護過程を学ぶ
・「NANDA看護診断」
事例展開

シミュレーション研修
・「急変対応」

リフレクション研修
・自分の看護体験を振り返り、「私の看護観」について考える

私の看護観発表会

がん看護

がん看護研修
・がん患者の特徴と家族看護の基礎を学ぶ

6月～夜勤開始！

がんの３大治療と看護
・「手術療法」「化学療法」「放射線療法」における看護の基礎を学ぶ

がん性疼痛マネジメント
・緩和ケア

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

I年間の目標の評価・レベルI申請準備

レベルI認定証書授与

看護部の教育目的・目標

教育目的

看護部理念に基づいた、がん看護を誇れる看護師像を目指して職業人として資質の向上と主体的・意欲的に行動できる能力を養う。

求める看護師像

相手の立場に立って、物事を捉え、考え行動することができる
患者さん・ご家族のアドボケーターになることができる
柔軟な思考で豊かに学び成長できる

教育目標

1. 看護者一人ひとりの能力を引き出し、主体的に看護を実践し責任が取れる看護者を育てる
2. 現代の医療や看護の進歩、医療の高度化、社会の変化に応じた看護ができるよう支援する
3. 看護専門職として資質の向上を図るために自己研鑽して人間的成長ができることを支援する
4. 実践した看護を倫理的に思考し、看護の科学性を追求する態度を養う

プリセプター制度

プリセプター制度とは

プリセプター 今野 瞳（左）／ プリセプティ 引地 果凜（右）

新人看護師（プリセプティ）には、心理的サポートや技術指導を行う先輩看護師（プリセプター）が付き、I年を通してマンツーマンでフォローします。

先輩看護師（プリセプター）

先輩看護師（プリセプター）5階東病棟　今野 瞳

4月からI年間、プリセプターとして日々一生懸命なプリセプティを見て自分の新人の頃を思い出しました。看護師として新人であると同時に社会人I年目として、指導していかなければならないことが多くありました。

そのため、何かあったときにはまず相談できる相手となれるように、勤務が重なれば必ず声をかけて表情等に注意し、ときに病棟のスタッフと情報共有し見守りました。人に教えるということは自分自身が理解していないとできないことであり、正しい知識や正しい基本姿勢が求められました。プリセプターとして不安、喜び、達成感などさまざまな思いを抱えたI年でした。

今後は教育を行う一人として私が出来ることを担いながら、プリセプティの思いを共有し支えられる存在となっていきたいと思います。

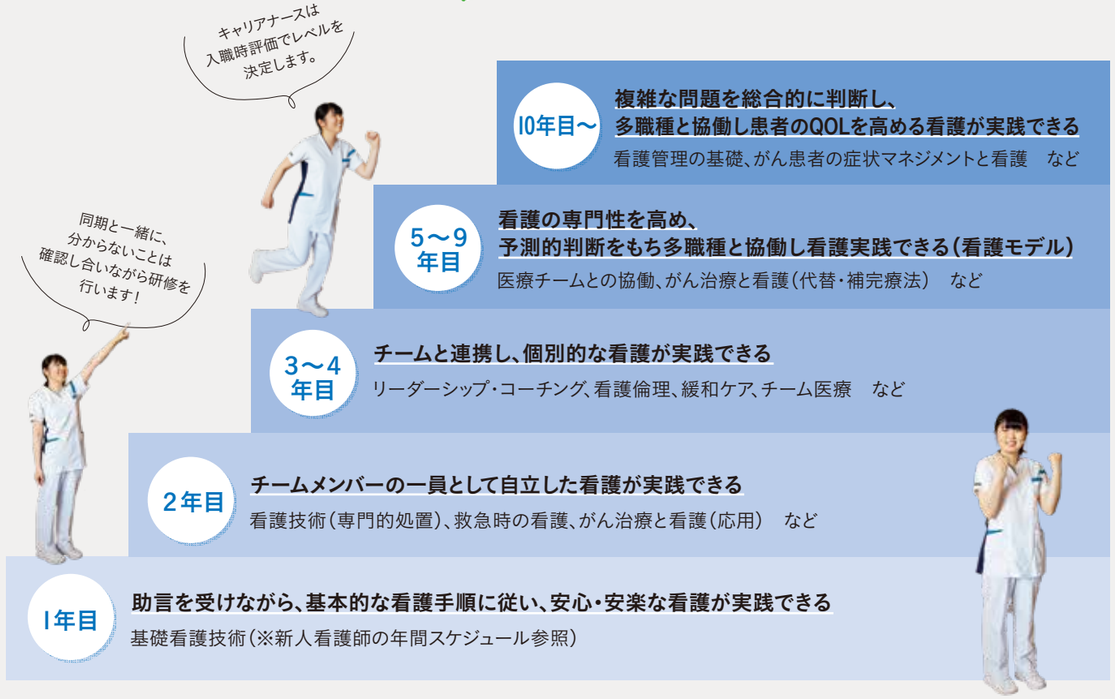
新人看護師（プリセプティ）

新人看護師（プリセプティ）5階東病棟　引地 果凜

入職当初は、職場環境に慣れることや初めて経験することなど分からないことや覚えることが多く大変でした。また、私は要領が悪くミスすることがあり毎日不安で一杯でした。そのような中でプリセプターは、私に適した支援計画を考えてくださり、出来ていることや改善点を一緒に振り返り看護師として成長できるように支えてくれました。一緒の勤務でない時には、経験させてほしいことなどを伝えておいてくれ、少しずつ出来ることが増えるようになり看護師としての進歩を実感できました。

入職してからまもなくI年になりますがまだまだ未熟な部分が多いため、これからも先輩方に指導・助言を貰いながら患者に信頼される看護師を目指して努力していきたいです。

クリニカルラダー



精神医療センター　がんセンター

看護師としてのキャリアを支える継続教育

プロフェッショナルとして信頼される看護師の育成を目指します

当機構では、“質の高い看護を提供し、プロフェッショナルとして信頼される看護師”の育成を目指し、各病院の専門性を重視した教育体制があります。また、2病院看護師が交流する「2病院合同研修」を開催しております。さらに職員のキャリア開発を支援する充実したサポート体制を整えております。

2病院合同研修

新規採用職員研修	副主任看護師研修	主任看護師研修	看護管理研修Ⅰ	看護管理研修Ⅱ
初年度	7～15年目	主任看護師	副看護師長	看護師長
●社会人基礎力 ●基礎看護技術 ●医療安全	●問題解決能力 ●リーダーシップ ●看護倫理	●人間関係論 ●ナラティブ ●病院経営	●看護管理の基本 ●看護マネジメントの理解	●看護管理能力の向上 ●病院経営参画の能力

自己啓発をサポート

◆自己啓発休業

長期間大学等への通学や国際貢献活動をしたい場合に、その期間を「進学」は2年まで、「国際貢献活動」は3年まで休業することができます。

◆修学部分休業

働きながら大学等に通学したい場合に、勤務時間の一部を2年まで休業することができます。

資格取得をサポート

◆専門・認定看護師

当機構では、各県立病院で専門性を発揮して活躍できる専門・認定看護師の育成にも力を入れており、資格取得に意欲のある看護師を全面的に支援しています。病院推薦により受講料、滞在費、交通費等を病院機構で負担し、出張扱いで参加できます。

看護の質向上をサポート

◆外部研修等へ参加

・役割研修
・専門領域による院内外研修
・看護研究・発表
・院外への研修会、講演会、学会への参加・発表

専門・認定看護師

資格取得に意欲がある看護師を支援します！

精神医療センター

感染管理認定看護師
石山 大

感染管理認定看護師として病院内の感染対策に従事しています。病院内では組織を横断しながら全部署とかかわりもっています。対外的にも保健所や他病院と打ち合わせや業務調整を担っています。

精神科は鍵のかかった構造が多く、他の科に比べ特殊な環境下にあります。精神科の特殊性を考慮した感染対策も大切ですが、標準予防策を代表とした一般化された対応をきちんと行っていくことが大切と考えています。多様性の時代ですが、基本を大切にし、感染対策を進めていきたいと考えています。

がんセンター

乳がん看護認定看護師
五安城 芙由子

乳がんの診断を受ける方は年々増加し、仕事や家事、育児をしながら治療を受ける患者さんも多くいます。次々と専門性の高い治療の選択肢も増える中、病状や治療を正しく理解し、納得した治療を受ける事が大変重要となってきます。日々患者さんとの関わりを持つなかで乳がん看護に興味を持ち専門性を高め、患者さんを支援できる存在でありたいという思いから、2015年に乳がん看護認定看護師の資格を取得し、現在外来通院する患者さんの治療選択支援や療養生活の支援を行っています。

乳がん看護認定看護師として、社会で生活を送る患者さんが希望するよりよい治療や生活が維持できるよう、患者さん・家族のお気持ちに耳を傾けながら、患者さんご自身がもっている力を活かしていけるよう支援を続けていきたいと思います。

精神医療センター

精神科認定看護師
足立 健一

精神科病院では、精神保健福祉法の趣旨のもと、安全を確保するために行動の制限を行う場合があります。私は精神科認定看護師の資格を取得後、主に行動制限が最も少なくなるよう患者さんをはじめ、みなさんの協力を得て取り組んでいます。

行動制限最小化はチームとして目標を共有し、継続して取り組むことで実現できると考えています。患者さんに関連のあるすべての人がチームメンバーとして協力し合えるチーム作りを意識し、今後も活動していきたいと考えています。

宮城県立精神医療センターは、一緒に悩んだり喜んだりして成長していける職場だと思います。

がんセンター

緩和ケア認定看護師
音喜多 妙子

私は母親のがん罹患を家族の立場で支えた経験や、多くの患者さんご家族の人生に触れる中で緩和ケアに携わりたいという想いが強くなり、緩和ケア認定看護師を志しました。家庭と子育て、仕事の両立に悩むこともありましたが、多くの方に支えていただき緩和ケア認定看護師、B課程の教育課程を修了し、2022年度に資格を取得しました。

緩和ケア認定看護師として、患者さんとご家族に心を寄せて関わり、抱えているつらさを全人的かつ多角的に和らげながら「その人らしく生きること」を支える看護を提供できるように努めています。

専門看護師
(Certified Nurse Specialist)

- ●がん看護専門看護師　2名
- ●感染症看護専門看護師　1名
- ●精神科専門看護師　1名

認定看護師
(Certified Nurse)

- ●皮膚・排泄ケア認定看護師　2名
- ●緩和ケア認定看護師　3名
- ●がん化学療法看護認定看護師　2名
- ●がん性疼痛看護認定看護師　1名
- ●乳がん看護認定看護師　2名
- ●摂食・嚥下障害看護認定看護師　1名
- ●がん放射線療法看護認定看護師　1名
- ●感染管理認定看護師　3名
- ●精神科看護認定看護師（精神科看護協会認定）　4名

先輩看護師の声を紹介します

キャリアビジョンへの支援

東日本大震災では、災害直後にみられる急性ストレス反応や中長期的にみられる適応障害、PTSDに苦しむ患者さんを目の当たりにし、被災者のメンタルヘルスやこころのケアの重要性を感じました。この経験を精神科看護師として自身のキャリアに活かせないかと思い、災害派遣精神医療チーム（DPAT）の研修に参加させていただいています。

研修後はDPAT先遣隊として、現場で被災者やその支援者のこころのケアを行っています。派遣時には1週間以上職場を離れ、被災地で過ごすこととなるため、職場や家族の協力が欠かせませんが、快く送りだしていただき大変感謝しております。

精神医療センター

本間 竜太

私が看護を行う上で最も大切にしているのは、患者さん一人ひとりがその人らしく生きることを支えることです。私はがんセンターに入職してから、患者さんに対する熱い思いをもつスタッフとたくさん出会ってきました。皆で患者さんがその人らしくいられるためには自分たちに何ができるだろうと、多職種交えて繰り返しカンファレンスを行うこともあります。その結果、患者さんの望んだ形で地域に戻れた時には大きなやりがいを感じます。

副看護師長として病棟配属となる新人さんには、そのような先輩たちの背中を見て貰い、患者さんに寄り添う看護を実践に繋げられるようなサポートをするようにしています。また、疑問点はすぐに解決できるような環境づくりをしています。私たちと一緒にがんと向き合う患者さんの支えとなり、安心を提供できるような看護師を目指しましょう！

がんセンター

山口 佳代

看護に専念できる環境

約1年の育児休業取得後、病棟へ職場復帰しその後外来へ異動となりました。病棟から外来への異動となり不安を感じていましたが、周囲のスタッフのサポートを受け日々の外来業務に取り組むことができています。

子どもの急な体調不良などにも対応できる制度(子の看護休暇)があるため、とても助かっています。勤務時間は育児部分休業という制度を使用し、働くことができています。

家族、外来師長・スタッフから温かい励ましやご指導を頂きながら、仕事・育児共に楽しく取り組むことができています。

精神医療センター

成瀬 里奈

約2年間の育児休業取得後、第一外来に配属となりました。復帰前は初めての外来勤務ということもあり不安でしたが、先輩方のサポートを受け安心して日々の外来看護に取り組むことができています。子どもの体調不良などで急遽休むことになったときも、スタッフ同士が助け合える環境があるためとてもありがたく、心強いです。

常に温かく励ましてくださる外来師長やスタッフ、支えてくれる家族に感謝しながら仕事・育児ともに今後も取り組んでいきたいです。

がんセンター

佐藤 花乃

福利厚生

充実した福利厚生や働きやすい勤務環境で
看護師生活を全力でサポートします

●勤務体制

□勤務時間

1日7時間45分（週38時間45分）

※三交替制勤務（日勤 8:30～17:15 ／ 準夜勤 16:30～翌1:15 ／ 深夜勤 0:30～9:15）

（部署によって早番、遅番勤務があります）

●給与・待遇

□初任給

大学卒275,902円 ／ 短大3卒272,045円 ／ 短大2卒263,113円

※令和7年4月時点。上記金額には給料の調整額・地域手当を含みます。

□諸手当

扶養手当、住居手当、通勤手当、期末・勤勉手当（年間約4.55月分）、夜間勤務手当（準夜1回3,100円、深夜1回3,550円）、夜間看護手当、時間外勤務手当、休日勤務手当 等

●休暇・休業制度

□年次有給休暇

年間20日（初年度は採用日によって異なります。4月採用の場合は15日）

□特別休暇

夏季休暇（5日）、結婚休暇（7日以内）、産前産後休暇（産前8週＋産後8週）、忌引休暇、ボランティア休暇 等

□育児休業制度

産後休暇後、子どもが3歳になるまで取得できる育児休業があります。

また、復帰後、子どもが小学校就学開始まで、取得できる育児部分休業もあります。

□休業

自己啓発休業、就学部分休業 等

このほかにも、病気休暇やリフレッシュ休暇など、さまざまな場面で活用できる休暇・休業制度を設け、職員の生活をサポートしています。

●福利厚生

□共済制度

地方職員共済組合に加入し、医療や年金については、地方公務員と同様の制度で保障や給付を受けることができます。

□定期健康診断など

必要な定期健康診断やがん検診を受診でき、必要な予防接種等も無料で受診することができます。

□サークル活動

各病院で、職員同士の親睦を深めることができるサークル活動を行っています。

●院内保育ついて

□院内保育所

がんセンターの敷地内に院内保育所（つくし保育園）を設置し、仕事と子育ての両立を支援しています。

（精神医療センターの職員も利用できます。）